

令和 2年度 行政評価事業別シート

	<input checked="" type="checkbox"/> 実計対象	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 完了事業	<input type="checkbox"/> ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/> 担当者	村上信親
	全体計画			経費区分	実施計画事業費	内線	3518
事務事業名	4190 歩道段差解消事業						
所 属	200100 まちづくり推進部・道路河川課						
施 策	01020500 障がい者福祉の充実						
予算 科目	会計	00					
	科目	xxxxxx					
	事業	xx0000 歩道段差解消事業					
事業目的				事業概要・効果			
マウンドアップ構造の歩道は段差があるため、特に高齢者・障害者・児童にとっては快適な歩道空間といえないことから、ユニバーサルデザインのまちづくりを目指すため歩道の段差解消を実施する。				住み慣れた地域で安全で安心して暮らせるために、ユニバーサルデザインの整備を継続し、全ての人に優しいまちづくりを推進する。			

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
歩道段差解消工事 村山墨坂中学校線 L = 160m	歩道段差解消工事 相森中学校線 L = 137m
平成29年度 実績	平成30年度 実績
歩道段差解消工事 相森中学校線 L = 200m	歩道段差解消工事 緑町東高校正門線 L = 140m
平成31年度 実績	令和 2年度 予定
歩道段差解消工事 緑町東高校正門線 L = 140m	

指標名						単位	m
算式						単位	m
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和2年度 予 算
事業費		24,108	0
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		24,108	0
人員数(人)	正規職員	0.1	0.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	726.5	0.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	726.5	0.0
市民一人当たりの経費		0.5	0.0
総額		24,834.5	0.0

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	24,108	工事費24,108
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	0	
10節 需用費	0	
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	歩行者の安全を確保する	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	高齢者、障害者、児童等に快適な歩行ができる	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	国の交付金を活用し事業を行っている	

振り返り（決算年度の取組み課題）

交付金の確保ができ、緑町東高校正門線の事業が完了した。

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

総合評価コメント

バリアフリー化による快適な歩道とするため必要な事業であり、年々成果が上がっている。

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

2次評価コメント

歩行者の安全確保のため、継続して進める必要がある。

外部評価

次年度以降の方向性	
-----------	--

外部評価コメント